

教育は大事だ。

例えば、数学の問題に苦しんでいるとき、「ハッ!この問題はこういうことを問うているのか」とグンと問題の本質に迫ることがある。そして、この本質を捉える力は人生のあらゆる局面でそのパワーを発揮する。壁にぶち当たっても、壁の本質を見抜くことで、壁に勝つことができるからだ。そうやって、人は成長するのだ。勉強する理由はここにあると、今の私は考えている。

ただし、教育とは何も勉強に限ったことではなく、学校以外でも行われる。子供にお箸の正しい持ち方を教えることや、様々な芸術に触れさせて豊かな感受性を育むこともまた、教育だ。

つまり、人に物事を「教」えることによって人間を「育」てるのが教育であり、教育無くして安定した社会は無い。教育は社会の基盤なのだ。

では、教育はどのようにして成り立っているのか。税金である。税金で教科書を作り、学校を建て、教員を雇う。税金に支えられているのは公立学校だけではなく、私立学校にも補助金が投入されているそうだ。教育の重要性が窺える。教育施設は学校だけではない。図書館や博物館にも税金が使われていて、老若男女誰でも教養を得ることができる。家で赤ちゃんを育てる場合はどうだろうと思い調べてみると、子育てにおいてもやはり、児童手当や児童扶養手当をはじめとするあらゆる家庭の形に対応した給付金があった。子供の成長に税金が役立っていることは確かだ。

納税は義務であるが、義務というどうしても「無理やり、否応なしに」というようなマイナスのイメージが先行してしまう。しかし、納税することによって、教育ひいては人間の成長に貢献できるのだ。なんと魅力的なシステムだろうか。もっとも、税金の使い道は教育だけではないが、自分の納めた税が社会にプラスにはたらくことは確実に、世のため人のため自分のために、納税は必須だ。

「相続税はなんで払うんかわからへん」と母が言った。相続税とは、不動産や現金を相続した際に払わなくてはならない税である。私も、亡くなった方がせっかく遺したお金から税を徴収するなんておかしいと思い調べたところ、相続税は資産の再分配のためにあるということがわかった。すなわち、特定の人間や一族に財産が集中することを相続税によって防いでいるのである。相続税は別に理不尽ではなかった。私は自分の無知を恥じた。そして、「なぜ税金を払うのか」だけでなく「なぜ課税対象なのか」ということも理解すべきで、そうすればより納得して税金を納めることができるのではないかと思った。

私も大人になれば、今よりずっと多くの税金を納めるだろう。そしてそのとき思うだろう。「自分がここまで成長できたのは、家族と、先生と、友達と、税金のおかげだ」と。